

平成 16 年 1 月 14 日、15 日の両日にわたって防災研究所の外部評価会議が開催された。これは、平成 10 年度の外部評価から 5 年度ぶりに行われたもので、国立大学法人化、研究所の改組などを目前にして、有益な評価や示唆を得る絶好の機会となった。なお本外部評価報告書は、この外部評価会議の結果をふまえ、平成 16 年 2 月中旬までに各外部評価者から提出いただいた報告（文書）を基にとりまとめたものである。

今回の外部評価は、9 人の外部評価委員の方々に次のような観点からの評価、意見を願った。

- ・ 前回の外部評価の指摘事項と、それに対するわれわれ防災研究所による達成度についての自己評価
- ・ 将来の研究展望と進むべき方向
- ・ 研究資源の更新および活用
 - 大学附置研究所として
 - 全国共同利用研究所として
 - 国際的研究・連携拠点として（とくにアジア太平洋地域において）
- ・ 防災研究所の存在意義を高めるための提案・アドバイス

（1）外部評価委員

9 人の外部評価委員は以下の通りである（敬称略）。

片山恒雄（独法）防災科学技術研究所理事長

道上正規 鳥取大学長

伊藤和明 NPO 法人 防災情報機構会長

藤野陽三 東京大学大学院工学系研究科教授

金森博雄 カリフォルニア工科大学教授（書面評価のみ）

Stephan J. Burges ワシントン大学土木環境学科教授

Ben Wisner ロンドン大学経済学部ならびに米国オーバリンカレッジ主任研究員

Keith W. Hipel ウォータール大学工学部教授

Wang Jiemin 岡山大学資源生物研究所客員教授

（中国科学院寒区旱区環境興工程研究所教授）

（2）評価資料の準備

平成 10 年度に外部評価を一度受けているので、今回は、まず、そのときに頂いた評価（改善指摘事項）に対してどのようにこの 5 年間対応してきたか、対処できなかった部分があるとなればそれは何か、という点について、各部門・センター、所長、3 人の所長補佐にアンケートを行った。すなわち、平成 10 年度の改善指摘事項を、(G) 研究所全体に関わる一般的事項、(R) 研究成果、(C) 所外との共同研究推進のためのより効果的な人的・資金的資源配分、(E) 教育活動、(O) 組織・管理運営・人事、(S) 社会との連携、の 6 項目に大別し、さらにそれをいくつかの小項目に分けて、S（極めて改善された）、A（よく改善された）、B（ある程度改善されたがまだ不十分）、C（あまり改善されていない）、X（答える立場にない、または、回答不能）という自己評価を行った。また、平成 15 年 4 月に発刊した自己点検・評

価報告書の主要部分を英訳化した。

これらの資料を、防災研究所の要覧（和英両方）とともに12月に事前に外部評価委員に送付して、評価の準備作業の便に供した。

（3）外部評価会議

上述したように平成16年1月14日、15日の両日にわたって防災研究所において外部評価会議を行った。その際事前および当日に配布した資料の主なものは、別添付録（外部評価関連資料①～⑥）に示すとおりである。また当日のプログラム概要は同資料③を参考にされた。当日の議論の概要は同資料⑦外部評価議事抄録にあるとおりである。